

GUIDE
2019

▶ POST GRADUATE CLINICAL TRAINING PROGRAM

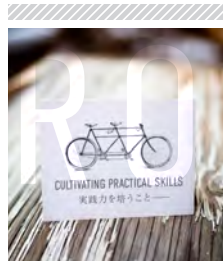
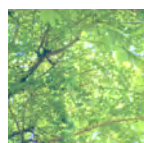
POST

GRADUATE

CLINICAL

TRAINING

PROGRAM



東京大学医学部附属病院

卒業臨床研修プログラム



プロフェッショナルの舞台へ

医学は学問であるばかりでなく、^{アート}技術であるということは
いくら繰り返しても多すぎることはありません。

それでは一体、何のために医者は勉強するのでしょうか？

それは、病気の人たちを治すためです。

病人が医師を呼ぶのは、医師がうんと勉強をして、

うんと知識があるからでなく、

その知識を病人に役立つように応用してもらうためです。

そしてこの応用こそ、すなわち技術なのであります。

明治時代に日本に招かれた

ドイツ人医師のエルウィン・ベルツ博士は、
東京医学校（現東京大学医学部）の医師および医学生に
この言葉を贈りました。

プロフェッショナリズムとは、

医師としての長いキャリア形成期間の

どの時点においても

常に追い求めていくべき考え方や姿勢であり、

一朝一夕に身に付くものではありません。

当院での研修を通して共にその道を追求しましょう。

CONTENTS

- 01 プロフェッショナルの舞台へ
- 02 病院長挨拶・センター長挨拶
- 03 研修プログラム紹介
- 05 協力病院・施設等紹介
- 07 センタースタッフ挨拶
- 09 研修医教育指導体制
- 11 研修医メッセージ紹介
- 15
 - 地域医療密着取材
 - 高知県地域医療研修
 - 短期研修プログラム
- 17 サポート環境
- 18 専門研修概要
- 19 INFORMATION & DATA

病院概要 (2018年度実績)

病床数	1,228床(一般:1,180床、精神:48床)
平均在院日数	12.8日(一般:12.5日、精神:31.3日)
外来述べ患者数	685,156名(1日平均2808名)
入院述べ患者数	353,647名(1日平均969名)
救急患者数	16,552名
職員数	3,972名 (常勤:2,708名、非常勤:1,264名)
診療体制	7診療部門38診療科
内科診療部門	総合内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、 腎臓・内分泌内科、糖尿病・代謝内科、 血液・腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科、 感染症内科、脳神経内科、老年病科、心療内科
外科診療部門	一般外科、胃・食道外科、大腸・肛門外科、 肝・胆・膵外科、血管外科、乳腺・内分泌外科、 人工臓器・移植外科、心臓外科、呼吸器外科、 脳神経外科、麻酔科、泌尿器科・男性科、女性外科
感覚・運動機能科 診療部門	皮膚科、眼科、整形外科・脊椎外科、 耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科、 形成外科・美容外科、口腔顎顔面外科・矯正歯科
小児科・周産・女性科診療部門	小児科、小児外科、女性診療科・産科
精神神経科診療部門	精神神経科
放射線科診療部門	放射線科
救急科診療部門	救急科

THE PATH TO PROFESSIONALISM

【病院長挨拶】

医療・医学の将来を支える医師になるために—— 無限の可能性を持つ皆さんの参加を歓迎します

プログラム総責任者 病院長 瀬戸 泰之



本院は、その起源を1858年の神田お玉が池種痘所の設立に溯り、日本の近代医学教育を支えてきた歴史と伝統のある病院です。本学の卒業生のみならず、意欲があり能力に溢れるさまざまな大学の出身者が集い、医師として要求される基本的知識と診療の技術、さらには患者と向き合う医師としての姿勢を学んできました。その結果、永きにわたり本院やさまざまな医療機関で活躍する優秀な人材を多数輩出し、日本の医学・医療の発展に貢献してきました。

医師臨床研修制度は、昭和21年の実地修練制度（いわゆるインターン制度）の創設、昭和43年の実地修練制度の廃止と臨床研修制度の創設を経て、平成16年に新医師臨床研修制度が始まりました。新制度では2年以上の卒後臨床研修が必修化され、「医師としての人格を涵養し、プライマリ・ケアの基本的な診療能力を修得するとともに、アルバイトせずに研修に専念できる環境を整備すること」を基本的な考え方として制度が構築されています。本院ではさらに目標を高く設定し、「医療及び医学の分野において指導者たる医師となるための礎を築くこと、すなわち、優れた指導者と充実した環境の下で医師としての人格を涵養するとともに、基本的な診療能力を習得し、研修医が将来医療及び医学において自らの果たす役割を明確にすること」としています。

この高い目標を達成するために、本院では多彩なプログラムを用意しています。都内や近隣の病院と協力したプログラムは、稀少疾患や難病をはじめとする大学病院に特徴的な疾患や治療法を学ぶ機会と、市中の第一線病院が得意とする分野でのトレーニングも可能としています。また、小児科重点・産婦人科重点等のプログラムも用意し、その選択の柔軟性を高く持っているのが特徴です。さらに、総合研修センターのスタッフたちが、研修医の皆さんの希望やニーズ、時には悩みも聞いて、皆さんの充実した研修生活のためのサポートをしてくれます。

本院での研修のもう一つの特徴は、その充実したリソースです。本院は1,228床の病床を持ち、約4千人の教職員が働く日本で最大規模の病院で、先端医療を含む幅広い医療を実践しています。若手医師から教授まで、全ての診療科(部)で多くの教育熱心なスタッフが揃っています。また、将来を担う多くの先輩が診療や研究に熱心に打ち込む姿に触れ、さまざまなバックグラウンドをもつ同僚と触れ合うことは、皆さんの将来に向けて大きな財産となることでしょう。本院は、無限の可能性を持つ皆さんの参加を歓迎いたします。

【センター長挨拶】

医師としての可能性を広げるために・・・

総合研修センター長
医学教育国際研究センター 教授 江頭 正人



医学生の皆さん。臨床実習、病院見学、国家試験の準備等で大変多忙な日々を過ごしていることと思います。また、ご自身の医師としてのキャリアのスタートをどの病院で行うか、多様な選択肢の中で模索中の方も多いのではないのでしょうか。医学生の皆さんには、是非東大病院の卒後臨床研修プログラムへの応募を考えていただきたいと思ひます。

東大病院は、その社会的使命として最先端の医療の提供、未来の医学を創生するための研究開発に加えて、医療・医学界をリードする多数の優れた人材の養成、輩出に一貫して貢献してきました。これらのミッションを果たすため、東大病院には本学の卒業生のみならず、意欲と能力のあるさまざまな大学の出身者が広く集い、診療・研究・教育に熱心に取り組んでいます。規模と設備の面でもトップクラスの病院であり、極めて質の高いプログラムとともに、研修医の方々にとって魅力的な研修の場を提供していると自負しています。若い専攻医から教授に至るまで、さまざまな世代の医師はいずれも教育に非常に熱心です。日常診療のちょっとしたコツから安全な医療の実現のための基本姿勢、さらには最先端の技術、知識にわたって、屋根瓦式の重層的な研修システムが確立されています。

一緒に研修する同僚が非常に多いことも東大病院のプログラムの特徴です。切磋琢磨する同期がいることは、大きな励みになることと思います。また、お互いに情報交換することによって、効率よく研修の質を高めていくことが可能になります。

各領域の専門医取得のためのプログラムも非常に充実しています。東大病院のプログラムで卒後臨床研修を行うことでシームレスに次のステップに入っていけることもメリットの一つだと思います。将来の専門領域をまだ決めていない方も多いと思いますが、卒後臨床研修の2年間を通してご自分の適性をじっくりと検討することができます。多様な選択肢も用意されていますし、最適な進路に進めるよう総合研修センターとしては最大限の支援をしていきたいと思ひています。

多くの意欲ある医学生の皆さんが、我々とともに医療の現場で働き、かつ学ぶようになることを願っています。是非、東大病院のプログラムで研修し、ご自身の無限の可能性を広げていただければと思ひます。

PHILOSOPHY AND GOALS

» 理念・目標

【東京大学医学部附属病院理念】

本院は臨床医学の発展と医療人の育成に努め、個々の患者に最適な医療を提供する

【東京大学医学部附属病院目標】

- ・患者の意思を尊重する医療の実践
- ・安全な医療の提供
- ・高度先進医療の開発
- ・優れた医療人の育成

【東京大学医学部附属病院研修理念】

東京大学医学部附属病院卒後臨床研修は、医療及び医学の分野において指導者たる医師となるための礎を築くこと、すなわち、優れた指導者と充実した環境の下で医師としての人格を涵養するとともに、基本的な診療能力を習得し、研修医が将来医療及び医学において自らの果たす役割を明確にすることを目的とする。

【東京大学医学部附属病院研修目標】

- 1 医師としての基本的な技能・知識・態度を身につける。
- 2 患者の課題を的確に把握し、置かれた状況に応じて最適な医療を選択できる。
- 3 患者や他の医療従事者と十分な意思疎通を行える。
- 4 医療安全の意識を身につけ、実践する。
- 5 将来自らが目指す医師像、医師としての方向性を明確にする。
- 6 研修を通して将来の医療及び医学を追究できる医師を目指す。

【研修の特色】

- ・全診療部門において優れたスタッフの指導の下、プライマリケアから高度専門的な医療まで幅広く経験ができます。
- ・都内及び主に関東甲信越圏内の優れた研修病院が協力病院となり、東大病院での研修と併せて、市中の第一線の病院でのトレーニングも可能です。
- ・指導者が豊富である利点を活かし、各種カンファランス、セミナー、講演会等、多彩な教育プログラムが用意され、臨床のみならず医療のさまざまな側面について、幅広く知識を深めることができます。
- ・同僚となる研修医がたくさんおり、お互いに刺激を受けながら、切磋琢磨して研修を行うことができます。

RESIDENCY PROGRAMS

» 研修プログラム紹介

2020年度プログラム 定員109名

皆さんにとってより良い研修プログラムとなるよう
病院全体でプログラムの改善に取り組んでいます



- ローテーションする診療科は、各プログラムとも下記の基本形を基に、病院全体の医師配置や研修の効率も考慮して決定します（マッチング決定後に希望調査を行いますので、選択できない診療科や研修期間に制限が設けられている診療科があります）
- 各年度内でのローテーションの順番は調整のうえで決定するため、研修医毎に異なります。

◆ Iプログラム【定員 60名】1年目、2年目とも東大病院で研修する。

〈1年目〉 東京大学医学部附属病院

内科 4ヶ月(16週)	救急科 1ヶ月(4週)	麻酔科 1ヶ月(4週)	外科 2ヵ月(8週)	選択 4ヵ月(16週)
-------------	-------------	-------------	------------	-------------

〈2年目〉 東京大学医学部附属病院・協力施設

内科 2ヶ月(8週)	救急科 2ヶ月(8週)	外来 1ヶ月(4週)	地域医療 1ヶ月(4週)	選択 2ヵ月(8週)	小児科 1ヶ月(4週)	産婦人科 1ヶ月(4週)	精神神経科 1ヶ月(4週)	麻酔科 1ヶ月(4週)
------------	-------------	------------	--------------	------------	-------------	--------------	---------------	-------------

- ※1年目の「選択」において、2年目の「小児科・産婦人科・精神神経科・麻酔科」を選択することができる。その場合は、2年目の「小児科・産婦人科・精神神経科・麻酔科」を2年目の「選択」に変更することができる。
- ※1・2年目の「選択」については、将来の診療科も考慮に入れ、研修科を決定する(適宜、東大病院プログラム責任者、総合研修センター教員のアドバイスも受けることができる)。

◆ II Aプログラム【定員 15名】1年目は東大病院で、2年目は協力型臨床研修病院で研修する。

〈1年目〉 東京大学医学部附属病院

内科 2ヶ月(8週)	救急科 2ヶ月(8週)	小児科 1ヶ月(4週)	産婦人科 1ヶ月(4週)	精神神経科 1ヶ月(4週)	救急科または麻酔科 1ヶ月(4週)	選択 4ヵ月(16週)
------------	-------------	-------------	--------------	---------------	-------------------	-------------

〈2年目〉 協力型臨床研修病院・協力施設

内科 4ヶ月(16週)	外科 2ヵ月(8週)	外来 1ヶ月(4週)	地域医療 1ヶ月(4週)	選択 4ヵ月(16週)
-------------	------------	------------	--------------	-------------

- ※1・2年目の「選択」については、いずれも将来の診療科も考慮に入れ、研修科を決定する。(適宜、東大病院プログラム責任者、チューター(副プログラム責任者)、総合研修センター教員のアドバイスも受けることができる)
- ※2年目に協力病院で研修することになるが、将来の診療科が決まっている場合には1年目終了時に各診療科の専門研修担当教員と面談を行い、2年目の協力病院での研修期間中にも定期的に相互に連絡をとり、3年目以降の研修について相談を受けることができる。また、将来の診療科が決まっていなくても2年目の協力病院での研修期間中にも東大病院プログラム責任者、チューター(副プログラム責任者)、総合研修センター教員と密に連絡をとり3年目以降の研修についてアドバイスを適宜得ることが出来る。

◆ II Bプログラム【定員 30名】1年目は協力型臨床研修病院で、2年目は東大病院で研修する。

〈1年目〉 協力型臨床研修病院

内科 6ヶ月(24週)	救急科または麻酔科 2ヶ月(8週)	外科 2ヵ月(8週)	選択 2ヵ月(8週)
-------------	-------------------	------------	------------

〈2年目〉 東京大学医学部附属病院・協力施設

救急科 2ヶ月(8週)	小児科 1ヶ月(4週)	産婦人科 1ヶ月(4週)	精神神経科 1ヶ月(4週)	外来 1ヶ月(4週)	地域医療 1ヶ月(4週)	選択 5ヵ月(20週)
-------------	-------------	--------------	---------------	------------	--------------	-------------

- ※1年目の協力病院での研修中に外来研修を並行して行った場合には、2年目の「外来」を「選択」に変更することができる。
- ※1年目に協力病院で研修することになるが、1・2年目の「選択」についてはいずれも将来の診療科も考慮に入れ、研修科を決定する(適宜、東大病院プログラム責任者、チューター(副プログラム責任者)、総合研修センター教員のアドバイスも受けることができる)。

◆ 小児科重点プログラム【定員 2名】

将来小児科医を目指す研修医のため、小児科研修に重点を置いたプログラムである。小児科医として最も大切な子どもに対するアプローチの仕方や知っておかなければいけない医療的知識、診断治療の考え方、そして救急処置などの必要な手技を2年間で効率良く習得する。小児外科、産科、こころの発達診療部、地域医療として外部病院小児科での研修が可能であり、胎児・新生児から思春期までの子どもの身体と心を総合的に診療する能力を身につける。

〈1年目〉 東京大学医学部附属病院

内科 4ヶ月(16週)	救急科 2ヶ月(8週)	外科(小児外科) 2ヵ月(8週)	小児科(小児科病棟) 2ヵ月(8週)	小児科(PICU) 2ヵ月(8週)
-------------	-------------	------------------	--------------------	-------------------

〈2年目〉 東京大学医学部附属病院・協力施設

内科 2ヶ月(8週)	小児科(NICU) 2ヶ月(8週)	精神神経科 1ヶ月(4週)	救急科または麻酔科 1ヶ月(4週)	産婦人科 1ヶ月(4週)	外来 1ヶ月(4週)	地域医療 1ヶ月(4週)	小児科(協力病院) 3ヵ月(12週)
------------	-------------------	---------------	-------------------	--------------	------------	--------------	--------------------

- ※1年目の「外科(小児外科)」については小児心臓外科に変更することができる。
- ※2年目の「救急科」については「麻酔科」に変更することができる。また「精神神経科」の研修は、こころの発達診療部において研修を行う。
- ※2年目の3ヶ月間は協力病院で研修を行うが、研修医の希望とプログラム責任者との協議の上で東大病院の希望する研修科を選択して研修することができる。

◆ 産婦人科重点プログラム【定員 2名】

将来産婦人科医を目指す研修医のために、女性診療科・産科、女性外科での産婦人科研修に重点を置いたコースである。医師としての総合的な診療能力の獲得に加え、産婦人科医としての基本的な考え方、臨床能力を身につける。産婦人科は周産期、生殖内分泌、腫瘍という3分野からなるため、それぞれ3～4ヶ月ずつ研修する。さらに周産期研修の一環として、新生児蘇生技術の習得を目標にNICUで2ヶ月研修する。救急科では産科救急事態に対応できる全身管理の習得を目指す。

〈1年目〉 東京大学医学部附属病院

内科 4ヶ月(16週)	救急科 2ヶ月(8週)	外科 2ヵ月(8週)	産婦人科 2ヶ月(8週)	女性外科 2ヶ月(8週)
-------------	-------------	------------	--------------	--------------

〈2年目〉 東京大学医学部附属病院・協力施設

内科 2ヶ月(8週)	小児科(NICU) 2ヶ月(8週)	精神神経科 1ヶ月(4週)	救急科または麻酔科 1ヶ月(4週)	外来 1ヶ月(4週)	地域医療 1ヶ月(4週)	女性診療科・産科 2ヶ月(8週)	選択 2ヵ月(8週)
------------	-------------------	---------------	-------------------	------------	--------------	------------------	------------

- ※ローテーションの順番については調整の上で決定する。
- ※1年目の「外科」は「大腸・肛門外科、乳腺・内分泌外科、泌尿器科、小児外科」の中から2つを選択し、1ヶ月ずつ研修を行う。
- ※2年目の「救急科」については、「麻酔科」に変更することができる。
- ※「女性診療科・産科」では、不妊診療・内分泌診療・内視鏡下手術の研修を行う。

AFFILIATED TEACHING HOSPITALS & INSTITUTIONS

▶▶ 協力病院・施設等紹介 | 第一線の市中病院での研修も可能です

都内を中心に関東甲信越圏に広がる本院の協力病院・施設等。

本郷キャンパスから地域の第一線の医療現場に場を変え、豊富な症例を経験していきます。



2020年度卒後臨床研修プログラム 協力病院一覧 (プログラム申請中)

病院名	受入	
	ⅡAプログラム	ⅡBプログラム

※受入については変更の可能性があります。

ⅡAプログラム・ⅡBプログラム

1 東京共済病院	●	●
2 東京通信病院	●	●
3 三楽病院	●	●
4 JR東京総合病院		●
5 日本赤十字社医療センター		●
6 慶應義塾大学病院		●
7 東京都健康長寿医療センター	●	●
8 がん研究会有明病院		●
9 同愛記念病院	●	●
10 青梅市立総合病院		●
11 国立病院機構災害医療センター	●	●
12 武蔵野赤十字病院	●	●
13 東京高輪病院		●
14 練馬光が丘病院	●	●
15 横浜労災病院		●
16 茅ヶ崎市立病院	●	●
17 国保旭中央病院	●	●
18 亀田総合病院	●	
19 さいたま赤十字病院	●	
20 茨城県立中央病院		●
21 日立製作所日立総合病院	●	●
22 筑波記念病院		●
23 太田総合病院附属太田西ノ内病院		●
24 竹田総合病院		●
25 藤枝市立総合病院		●
26 焼津市立総合病院	●	●
未定		
27 公立学校共済組合関東中央病院		
28 東京城東病院		

病院名	受入
	Iプログラム

Iプログラムの協力型相当大学病院

29 東京大学医科学研究所附属病院	●
-------------------	---



4 JR東京総合病院
東京都渋谷区



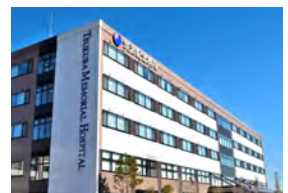
14 練馬光が丘病院
東京都練馬区



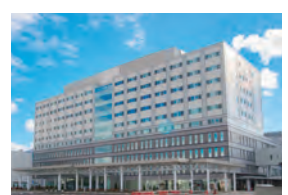
17 国保旭中央病院
千葉県旭市



18 亀田総合病院
千葉県鴨川市



22 筑波記念病院
茨城県つくば市



24 竹田総合病院
福島県会津若松市

VOICE OF MEDICAL INSTRUCTORS

— センタースタッフ挨拶 —

患者さんと日々向き合い、未来の医療へ貢献すること。
現在東大病院で切磋琢磨する研修医は
指導医による丁寧な指導の下、未来へ向けて邁進しています。
第一線で活躍する指導医からの温かく励みになるメッセージです。



医療人としての 成長を応援します

総合研修センター副センター長・講師
(心臓外科所属) 木村 光利

医学生の皆さん。臨床実習や国家試験の準備等で忙しい中、医師としてのスタートをどの病院で行うか必死に悩んでいるのではないかと思います。卒後最初の2年間の臨床研修は、将来どのような診療科(部)を選択するのか、あるいは研究者や行政官を選択するのに関わらず、非常に大切な期間になります。医学生の皆さんには、その重要な医師としてのスタートを、是非本院の卒後臨床研修プログラムで始めてもらいたと思います。

本院で臨床研修をするメリットは、まず優れた指導医が数多く在籍していることが挙げられます。本院は、様々な分野において日本の医学界を牽引するトップクラスの医師を抱えています。エビデンスやガイドラインに基づいた医療が今後ますます重要となってきますが、それらの策定に実際に関わったスタッフから直接指導を受けられるのは、本院で研修をする大きな魅力の一つです。さらに、本院では卒後臨床研修を終えたばかりの専門研修医から、それぞれの分野で20年以上活躍してきた専門医・指導医まで、幅広い世代の医師が皆さんの指導に当たります。本院のスタッフはいずれも教育に熱心であり、研



充実した指導医に 恵まれた環境でしっかりと 基礎を学んでいただきたい

総合研修センター 助教
(大腸・肛門外科所属) 室野 浩司

医学生の皆さん、臨床実習や国家試験に向けて忙しい中、将来どの診療科に進むか、どの病院で研修を受けるか悩まれている方も多いと思います。

研修の2年間は医師としての土台となるとも大切な時期です。3年目からは専門研修が始まりますので専門以外の診療科で基礎を学ぶことができるのはこの2年間だけと言ってもよいかもしれません。

よい研修を受けるためには本人のやる気が最も大切ですが、充実した指導体制の中、たくさんの症例を経験することが重要です。そんな中で東大病院は症例が豊富なのももちろんですが、人材も豊富ですので分からないことはすぐに上級医に相談できる指導体制が整っております。また、文献も容易に検索できるため、稀な疾患を担当した際

修生活の乗り切り方から最先端の医学知識に至るまで、皆さんの疑問に対してそれぞれの知識や経験に応じて答えてくれるでしょう。

卒後臨床研修プログラムが柔軟で多様性に富んでいることも本院で研修を受けるメリットです。皆さんが臨床研修に求めるものはひとりひとり異なっているかと思いますが。地域医療も担う各協力施設との連携プログラムや大学病院における多様な診療科(部)での必修・選択研修など、研修医の様々な希望に応じて本院の臨床研修プログラムでは多彩な選択肢を用意しています。さらに、2年間の卒後臨床研修の後に繋がる専門研修プログラムも充実しています。本院では、卒後臨床研修を受ける皆さんに専門研修へのキャリアパスを積極的に支援しています。

共に研修をする数多くの仲間が出来ることも本院のメリットの一つです。本院には出身大学を問わず日本全国から高いモチベーションを持った多くの研修医が集まって来ます。共に成長し助け合うことのできる仲間との出会いは、研修終了後も皆さんの大きな財産になることでしょう。

2年間の本院での卒後臨床研修は、皆さんの医師として人としての成長を大きく促してくれるはずですが。本院では、医師のほか看護師・薬剤師・技師などのメディカル・スタッフが、研修医の皆さんが成長するのを応援しています。意欲ある医学生の皆さんが本院の卒後臨床研修プログラムに積極的に挑戦し、我々と共に働き、学び、優れた医療人として成長してくれることを心から願っています。

などには日本語でも英語でもすぐに論文の検索することができます。

分らないことをいい加減に終わらせて、ただただ日々の仕事をこなしてだけで研修が終わってしまう人も多いですが、それではなかなか実力はつきません。一つの症例を無駄にせず、立ち止まって考えながら学んでいくことが大切です。本院では2年間様々な科をローテートすることでそれぞれの科の第一線で働く専門医より手厚い指導を受け、しっかりと基礎を学んだ後、今後の専門研修に進むことができます。また、まだ診療科を決めてらっしゃらない方もいらっしゃるかと思います。東大病院ではあらゆる科をローテートすることができますので、研修をしながらゆっくりと自分に合った科を見つけることも可能です。

研修プログラムも2年間東大病院で研修するプログラムだけでなく、1年間東大病院で残りの1年は協力病院で研修することもできます。大きな組織ですので本院では研修医の様々なニーズに応じた研修ができるのも魅力だと思います。

2年間の研修で、優れた医療人としての礎を築いてもらえるよう、本院は応援いたします。志の高い先生方と一緒に働けることを楽しみにしています。



東大病院で 医師の歩みを始めませんか

総合研修センター 助教
(循環器内科所属) 山田 奈美恵

本院での卒後臨床研修を考えている医学生の方皆さん。ここには皆さんそれぞれが思い描く自分の将来の医師像を叶えるための環境があります。現在皆さんは診療科(部)の選択とともに、臨床医、研究者、行政官、或いはもっと他の道とそれぞれの進路の希望を抱いていることでしょう。もちろん未定の方もいるでしょう。卒後臨床研修は皆さんが医師の基礎を身につける期間です。卒後臨床研修で得た知識、経験、技術はこれから医師として生きてゆく中でさまざまな判断の礎となります。

本院で研修を行う一番の魅力は豊富な人脈が広がることです。研修医を指導するのはそれぞれの専門分野の臨床や研究で第一線にいる医師です。国内有数規模の病院として多くの診療科(部)があり、専門医としてのみならず、教育者としても熱心な指導医が数多く皆さんを待っています。カンファランスや勉強会も数多く、密度の濃い研修を送れるように準備されています。また、研究者とも近いことが本院の特徴でもあります。基礎研究、臨床研究、公衆衛生、社会医学等、さまざまな分野の研究者が活躍しており、研修中からトップクラス

の研究環境を身近に知ることができます。

また、研修医受入数も最大規模です。このため同期も多く、同じ環境で研修することで互いに刺激となり、また困った時には相談もできる良い仲間が得られることでしょう。そして、研修中に得られた縦横の人間関係は、研修終了後も大きな力となることでしょう。

次に、設備や環境も研修を充実させる大切な要因です。本院の文献検索システムは非常に充実しています。大学病院の特性として、希少疾患や最先端の治療法等に接する機会も多く、必要時に豊富な文献に容易にアクセスできることは研修の質を大いに高めることだと研修を始めると早期に実感できると思います。また、技術訓練用のシミュレーターや教育用DVD等も準備されており、技術を身につけるための設備も用意されています。

さらに、研修プログラムも種類が多く、弾力性が高いのも特徴です。皆さんそれぞれの希望に応じた研修を受けられるよう、複数のプログラムが設定されており、それぞれのプログラムの中でも選択肢が多彩です。研修先も本院、協力病院、開業医、僻地、行政機関といったさまざまな研修先が用意されています。実際の現場に立つことでしか得られない視野を是非広げていって欲しいと思います。また、将来の進路以外はこの研修期間でのみ経験する場合もあります。

将来どのようなキャリアを選択するのであれ、研修の中で患者に寄り添う医師としての心・技・体そして知識を身につけてください。そして、本院での研修ではそれらが十分得られると考えています。



優秀な同期と切磋琢磨できる 環境があります

総合研修センター 助教
(循環器内科所属) 中山 幸輝

来春医学部を卒業予定の皆さんへ。循環器内科所属、教育担当助教授の中山幸輝です。研修制度も刻々と変わる中で初期研修をどこで行うかは重要な選択になると思われます。東大病院ではcommon diseaseはもちろん、他院から搬送されてくる重症疾患、希少疾患に至るまで幅広い症例を経験できます。各科において高度先進医療から終末期医療まで様々な治療の選択を行っています。大学病院という性格上、アカデミカルな雰囲気もあり、多くのスタッフが患者に最良の医療を提供するために日々様々な議論がされています。技術的な訓練や多くの症例を見ることも重要な初期研修の目標ですが、最初「考える力」を身につけておくことは、後々の研修で非常に役立つものになると思われます。そして何より東大病院には多くの優秀な同期が集まります。優秀な同期を見習ってまた教えあって切磋琢磨できる環境がとてもいい時間だったと、初期研修を東大病院で行った昔を思い返しています。

総合研修センターで仕事をすることになって気付いたのは、様々な面でサポートする多くのスタッフに研修医が守られていることです。よりよい研修を行えるように病院全体としてどう工夫すればよいか日々考えてもらえる、という意味では他のどの病院にも負けていないと思います。来春多くの優秀な先生方にお会いできるのを楽しみにしています。



東大病院で、 総合力を持った医師に

総合研修センター 助教
(救急科所属) 栗本 美緒

将来求められる医師像の一つに「総合力を持った医師」というものがあります。総合力とは一体何でしょうか。私たちは、ある疾患を書物や文献から学ぶことができます。しかし、書物は疾患については記述しているものの、患者を医学的に知る現実の具体的な方法は示していません。どれほど疾患についての知識があろうとも、優れた技能を持っていようとも、患者の現実の医学構造全体を明らかにしてその構造の中で適切に対処できなければ、医師としての仕事は成就しません。そのためには、患者の全体を医学的に正しく深く理解し、合理的に行動するための方法が必要で

す。将来どのような道に進もうとも、医師としての最初の2年間である初期臨床研修で、その方法を学び「総合力」の基礎を身につけることはとても重要です。

ご興味のある方は、東京大学医学部附属病院で、私たちと一緒に学びませんか。

STYLE OF TRAINING

» 研修医教育指導体制 | 各種セミナーと熱心な指導で手技や知識を体系的、有機的に習得

総合研修センターでは、臨床研修医の皆さんが基本的かつ必須の手技、知識等を習得し、意欲のある者にはさらに充実した経験も得られるように教育プログラムを策定しています。昨今の卒後教育では、日常の診療業務を通しての学習だけでなく、講習会・研修会での学習(Off the Job Training)も注目されています。本院では、日常の診療業務と合わせて体系的、有機的に知識や手技を身に付けられるよう、診療科の枠を超えたセミナーや症例検討会、外科系手技の実習、一次・二次蘇生法の講習会等を随時開催しています。このようなカンファランスや講習会の充実ぶりは全国の臨床研修病院の中でも秀でており、意欲的な皆さんに多様な学習の機会を提供しています。また、これらの講習会には皆さんがいずれ各診療科の専門医資格を受験する際に必要になるものも含まれており、本院での研修によって皆さんが専門研修さらには専門医取得へとスムーズにキャリアを重ねていけるように配慮されています。本院のシミュレーションセンターは2018年9月に新病棟に移転し、これまでよりも一層利用しやすくなりました。

このような教育体制に加えて、各診療科には教育熱心な指導医が数多く揃っています。どの診療科をローテートしても熱心なベッドサイドでの指導を受けることができます。また、希望する研修医は学会・研究会等での発表の指導を受けることもできます。



■ 症例検討会・各種講習会

緩和ケア研修会

がん診療に携わる医師が緩和ケアについての基本的な知識を習得し、治療の初期段階から緩和ケアが提供されるようにすることを目的とし、実施しています(年2回)。研修医は2年目から参加することができます。講義だけでなく、ロールプレイやグループワークなどの研修も含まれており、研修会の参加者には修了証書が発行されます。

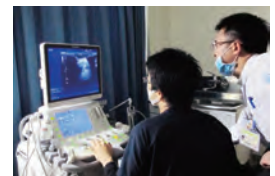
外科 Grand Round

月1回、外科専門医を基礎とする外科系9診療科の教員・病棟医・研修医等が集まり、症例検討会及び大学病院で行われている先端医療のレクチャーを行います。研修医はローテートしている診療科を問わず参加が可能です。各々の専門が異なる外科医同士の質疑応答(例えば小児外科医から成人消化器外科医への質問等)は学会・研究会とは違った面白さがあり、当院の外科系診療科の連携を感じることができます。年2回、若手・中堅外科医の指導による結紮・縫合実習もあります。



検査部講習会

検査部(エコー室・細菌検査室等)主催のセミナーで、心エコーや腹部エコーの実技ハンズオンセミナー、グラム染色法の実技講習会などが行われています。エコーのハンズオンセミナーでは、基本画像の描出手技や評価方法について時間をかけて学ぶことができます。また、光学診療部(内視鏡室)主催で研修医向けの上部消化管内視鏡のハンズオンセミナーも開催されています。内視鏡の基本手技を、講義とシミュレーターを用いた実技演習を組み合わせながら身につけることができます。



臨床研究者育成プログラム

医学における臨床研究の重要性を知ってもらい臨床研究者としての考え方の基礎を身につけることを主眼とするプログラムで、金曜日昼にミニレクチャーを開催しています。各診療科で臨床医として働きながら、一流の臨床研究を実践している研究者の講演は、臨床と研究の両方に興味を持つ研修医・医学生に大変好評です。また、臨床研究には不可欠な生物統計学のレクチャーなども行われています。リサーチマインドを持った臨床医・研究医を育てたいという本院特有のプログラムです。

その他の院内研修会

医療安全セミナーや感染対策セミナー、医療機器に関するレクチャー、栄養に関する勉強会(NSTセミナー)など、研修医を含めた病院スタッフ向けの講演会や研修会が多数開催されています。研修医は、これらの研修会に自主的に参加して自身の知識を深めることができます。

救急蘇生講習会

総合研修センターでは一次・二次蘇生法に関する各種講習会を開催しています。AHA（アメリカ心臓協会）認定のBLSやACLS講習会、日本内科学会認定のJMECC講習会、日本救急医学会認定のICLS講習会などの各種講習会を院内で受講することができます。これらの講習会では、普段なかなか遭遇することができないけれど医療者として不可欠な患者急変時の対応について系統的に習得することができます。また、一部の専門医取得にはこれらの講習会の受講が不可欠なものもあります。

これらの救急蘇生法に関する資格（受講証）は、全国共通のライセンスです。院外の研修施設に受講に行くこともできますが、自分の研修施設で受講する事ができるのは、大きな魅力の一つとなっています。



2018年度実績

日程	コース名称	認定団体	日程	コース名称	認定団体
2018年 4月14日(土)	BLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)	2018年 11月11日(日)	JMECC講習会	日本内科学会
5月27日(日)	BLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)	12月15日(土)	ACLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)
6月9日(土)	JMECC講習会	日本内科学会	2019年 1月13日(日)	JMECC講習会	日本内科学会
7月8日(日)	BLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)	1月19日(土)	BLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)
7月22日(日)	JMECC講習会	日本内科学会	2月24日(日)	ACLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)
9月29日(土)	ACLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)	3月10日(日)	JMECC講習会	日本内科学会
10月20日(土)	BLSプロバイダーコース	AHA(アメリカ心臓協会)			

学会・研究会発表

希望する研修医には、自身が経験した症例等を学会・研究会で発表する機会があります。学会・研究会での発表は、研修医にとっても貴重な経験となります。各診療科の指導医が発表までの準備、発表時のサポート等を含めて丁寧に指導します。当院の研修医の中には、学会の「研修医部門」において表彰されるものもあります。



クリニカルシミュレーションセンター紹介

シミュレーション室

シミュレーション室には救急蘇生、基本診察、手技修練のために多くのシミュレーターが設置され、学習の用途に合わせてこれらを利用することができます。さらに医療用DVD、CBTも完備し、臨床研修医の方々の学習を支援しています。

シミュレーター一覧

- 【救 急】** レサシアンシミュレーター、ALSシミュレーター、SimMan3G、レサシアン、AEDトレーナー
- 【身体診察】** 心臓診察シミュレーター“イチロー”、呼吸音聴診シミュレーター“ラング”、眼底診察シミュレーター、耳の診察シミュレーター
- 【気道管理】** 気道管理トレーナー、AIRSIMエアウェイトレーニングシステム、新生児気道管理トレーナー
- 【看 護】** ナーシングアン、バイタルシム、フィジカルアセスメントモデル“Physiko”
- 【基本手技】** 点滴・採血トレーナー、点滴静注シミュレーター、中心静脈穿刺シミュレーター、洗腸・導尿トレーニングモデル
- 【小 児】** ベビーアン、SimNewBABY(新生児)、SimJunior
- 【専門手技】** 内視鏡手術シミュレーター、内視鏡検査トレーナー、超音波トレーニング・シミュレーター

シミュレーション室 URL:

<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/soken/simulator/index.html>



シミュレーション室(手技)

基本診療手技が行えます。採血・静血、静脈穿刺、エコーガイド中心静脈シミュレーター、縫合練習。



シミュレーション室(大)

配管ユニットが備え付けてあるため、酸素吸入や吸引を実施することも可能です。ICLS、BLS、ACLSの研修を行うことが可能です。



シミュレーション室(小)

シミュレーターを制御するコントロール室。



シミュレーション室(病床)

病室を再現したシミュレーション室。

MESSAGES from RESIDENTS

— 研修医メッセージ紹介 —

全ては患者さんのために良質の研修を積み重ねる 研修医たちの姿がここにある

プライマリケアから専門分野に至るまで、可能性を追い続けていく本院の研修医たち。
指導医や先輩方と日々切磋琢磨し、また同期と勉強を重ねることでモチベーションを高めています。
未来の医療界をリードするプロフェッショナルになるために、
なにより患者さんのために質の高い研修を積み重ねる先生方から、メッセージをいただきました。

豊富な人材と教育資源の多さ

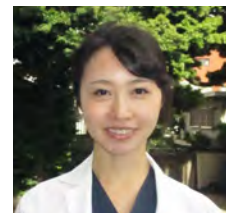
東大病院での研修を初めて1年が経ちました。私はAプログラムに属しており、1年目は東大病院、2年目は市中病院で研修するという内容になっています。2年間の研修をまだ折り返したばかりですが、この1年間東大病院で研修をし、学んだこと、感じたことを皆さまに少しでもお伝えできたら幸いです。

東大病院の特徴として、豊富な人材と教育資源の多さがひとつに挙げられます。メジャー科からマイナー科まで高い専門性を誇っており、それぞれが強い科です。そういった大病院で、バランスの取れた初期研修を行えることは東大病院の魅力のひとつではないかと思えます。それぞれに特化した指導者が各科に数多く存在し、疾患との向き合い方、患者との接し方、治療方針の建て方をしっかりと学ぶことができます。医師数が多いことですぐに上級医とコンタクトが取れ、臨床での疑問などをすぐに相談できる環境でもあります。大学病院であるからこそ、珍しい症例や合併症の多い患者も多いですが、後期研修医から指導医まで幅広い指導を受けることができ、難しい症例でもしっかりと自分の物にしていくことができました。

また、同期の多さも東大病院の魅力の一つです。科によっては、数人の同期と回ることが多いため、互いに刺激し合いながら研修をしながら学

び合える環境にあると思います。同期以外にも、ひとつ上の研修医や東大病院で研修した後期研修医なども多く在籍しており、気の合う仲間だけでなく、将来のロールモデルを見つけるにも適した病院ではないでしょうか。勉強の仕方、患者との向き合い方、さまざまな働き方がある中で、今後自分がどのような医師になるか考えることも研修意義のひとつではないかと思えます。これだけ多くの人材がいることで、ロールモデルを見つけ出し、将来のキャリア設計に繋げることもできると実感しました。

その他にもここには載せきれない程の魅力が東大病院にはあります。興味を持っていただけた方はぜひ一度見学にお越しください。これを読まれている皆さまが、自身に最も合った研修を選び、有意義な初期研修となるよう願っております。



18生 Aプログラム
中居 杏奈 先生



トップレベルの豊かな研修環境

私が本院での研修を決めた理由は、豊富な診療科を有し、臨床と研究が密接に結びついた環境に身を置きたいと考えたからです。皆さまの中には、将来の専門やキャリアパスを明確にイメージしている方もいらっしゃるでしょう。しかしマッチングの時点で、私は具体的な進路を決めていませんでした。どの診療科に進むのか、臨床家となるのか、はたまた研究の道に入るのか。じっくりと見極めるためにここほど適した環境はないと考え、2年間大学病院勤務となるCプログラムを選択しました。実際に1年間の研修を終えて、その決断が正しかったことを実感しています。

東大病院には報告数わずか数百例の希少な疾患も集まって来ます。本院が牽引する新治療なども数多く、それらについて先生方が熱く議論を戦わせる場面に何度も出会いました。新しい医療が生まれる現場に立ち会うことができる喜びを感じました。もちろんcommon diseaseの症例も豊富です。バランスよく経験を積み、医師として必要な力を身につけることができる環境が整っています。

特に指導医の先生方の熱意は本当に素晴らしく、基本的事項から最新の知見に至るまで、惜しみなく知識を授けて下さいました。キャリアパスに関する相談にも、多彩な経歴をお持ちの先生方が大変親身になって応じて下さり、貴重なお話を沢山聞かせて頂くことができました。

多くの同期との出会いも得難い経験となりました。本院には、東大出身者のみならず日本全国から優秀な研修医が集まります。Cプログラムだけでも40人、同期全体では100人を超えます。日常の業務で切磋琢磨し支え合うのももちろんのこと、様々な価値観、目標を有する彼らとの交流は、私の世界を大きく広げ、将来を考える上でも大きな影響を与えてくれました。

2020年度からは研修プログラムが一部変更されるとのことですが、上記のような東大病院の特長や魅力は、変わらず引き継がれていくものと確信しています。学生の皆さまはぜひ一度見学に来て頂き、ご自分の目で確かめてください。医師としての最初の2年間、実り多い研修生活を送られることを願っております。

18生 Cプログラム
入江 紗瑛子 先生



PATH TO BECOMING A PROFESSIONAL

道を究めて、
その先のプロフェッショナルの舞台へ

— 研修医メッセージ紹介 —

小児科重点プログラムの魅力：一般小児から高度医療まで

初期研修医として2年間この病院でどのような研修を行うかは、その後の専門分野やロールモデルを左右するものであり、将来のターニングポイントとして非常に重要です。私も実際に様々な病院を見学し、東大病院の本プログラムを希望いたしました。ここでは私の所属する小児科重点プログラムを一例として、小児科に興味をお持ちの先生方に提示し、どのような研修が自分に合っているかについて熟慮するきっかけとなれば幸いです。

東大病院小児科は新生児班・循環器班・血液班・神経班・総合班の5つに分かれており、小児科重点プログラムでは8ヶ月かけて全ての班で研修を行うことができます。東大病院は、小児科の全ての分野において専門性の高い医療が行われ、小児外科や心臓外科など他科との連携やICUなどの高度医療も充実している数少ない医療機関の一つです。私が経験した症例で印象深いものは、血球貪食症候群で骨髄移植後の脳出血や感染でPICU管理となった症例で、小児科のさまざまな班や脳外科など他科の先生方との連携が不可欠なものでした。このような症例を間近で見られるのは大学病院の大きな利点だと感じています。

本プログラムの長所は、専門性の高い小児医療だけにはとどまりません。一般外来で診るような急性上気道炎のようなコモンな疾患も、当直を希望すれば救急外来にて経験を積むことができます。外来では土地柄のために外国旅行者の患児も時々遭遇することもあり、非常に刺激的

です。さらに、2年目の4ヶ月は地方の関連病院にて数多くの症例を経験します。私はまだ外部病院での研修を修了していませんが、先輩の先生方は口を揃えて小児科医として成長できる非常に有用な機会だとおっしゃっています。

また、小児外科や産科、児童精神科の研修も組み込まれており、将来小児科医として切り離せない他科の臨床知見を深めることができます。6ヶ月程度は成人医療の研修もあり、自らの経験で小児医療と対比させて考察することができます。現在ではローテーションの希望は重点プログラムが優先されやすい傾向にあり、自分に合った研修内容を組みやすくなっています。

ここで記載できる内容には限りがありますので、東大病院小児科に少しでも興味があるようでしたら是非見学にいらしてください。皆様にとって本プログラムが素晴らしい研修となり、また皆様と楽しく小児臨床を勉強できる日が来るのを祈願いたしております。

17生 小児科重点プログラム
井上 秀太郎 先生



重点プログラムだからこそ得られること

ジェネラリストになりたいか、スペシャリストになりたいか。まずは、ジェネラリストになることが現在の一般的考え方になりつつあり、今初期研修の病院やプログラムを考えている皆さんの中にはそういったことを考え選択される方も多いかと思いますが、私が東大病院の産婦人科重点プログラムで研修を希望したのは、少しでも早くスペシャリストとして働きたいと考えたからです。当院の産婦人科は、腫瘍・リプロダクション・周産期の3グループに分かれながら、どのグループも豊かかつ多彩な症例を扱っております。加えて臨床と並列し多様な研究が行われており、また自分がやりたいことを見つけ深めていくためのロールモデルとなる先生方が多数いることも大変魅力的で、その環境に早いうちから身を置きたいと考え当院での研修を希望しました。

重点プログラムでは当院で唯一1年目から産婦人科での研修が可能で、2年間で最大10か月の産婦人科研修(地域研修を含む)を行います。1年目から手厚いご指導の下、手術の執刀、妊婦検診、内診・会陰縫合などを行います。産婦人科としての当直ができるので、通常分娩だけでなく夜間の緊急手術の対応を上級医の先生方と共にします。また当院は総合周産期母子医療センターに指定されているため、合併症を持った妊婦や先天性疾患のある胎児の妊婦などが他院より搬送されてくることが多く、その現場の対応も学べます。このような産婦人科の第一線を間近で感じられるのは、長期間産婦人科で研修のできる当プログラムの醍醐味です。

大学での研修を希望した理由に、縦と横の関係を早くから作りたい

という思いもありました。産婦人科は多くの合併症を持っていることが多く、その対応が適切にできるようになることも必要と考えていたからです。この一年で産婦人科として働く上で必要十分な内科・外科での研修ができ、かつ研修の際に各科で多くの先生方と繋がりが持てました。他科での研修中も、将来産婦人科になるならこんなこと知っておくといよ、とその科ならではのポイントを教えていただくことも多々あります。

横の繋がりがとても濃く、100人を超える同期がおり、困り悩んだ時に助け合える仲間がたくさんできました。

早くから産婦人科で多くの時間を研修に費やしたことで、将来産婦人科として働くことを意識しながら刺激的な毎日を送ることができ、産婦人科への興味が増していくばかりです。少しでも早く産婦人科のプロフェッショナルとして働きたい方に変をおすすめします。いつか東大病院での充実した研修を終えたみなさんと産婦人科医として共に働けることを楽しみにしています。

17生 産婦人科重点プログラム
古川 真帆 先生



初期研修で公衆衛生を学ぶ

みなさんは、医師としての最初の2年を過ごす研修病院にどんなことを求めるでしょうか。東大病院で初期研修を行う大きなメリットとして、選択肢の幅が広く、自分の関心に合わせた研修ができることがあげられます。国立保健医療科学院が提供する2ヶ月の研修はその特別な選択肢のひとつで、公衆衛生に関心のある方にとっては非常に恵まれた内容になっています。私が当院での研修を選んだのも、学生のときに参加した研修説明会でこのプログラムの存在を知り、魅力を感じたことが強く影響しています。

このプログラムは、国内外の公衆衛生関連機関の訪問と、埼玉県和光市の国立保健医療科学院で行われる院内講義で構成されています。全国から集まった12人の同期とともに、ジュネーブのWHO本部、マニラのWPRO(WHO西太平洋地域事務局)、フィリピン大学などの海外研修や、厚生労働省、防衛省、国立感染症研究所などの訪問・インターンを通して、第一線の行政官や研究者の方からレクチャーを受け、ときには業務の一部を経験することができました。きめ細かな施策に感動を覚えることもあれば、改善すべき現場の課題に気づくこともありました。院内講義では、人口問題からAIまで、医療・保健に関わる幅広い分野での最新の知見を学ぶとともに、グループワークや英語・日本語でのプレゼンテーションを通じて、臨床医学とはまた異なる、より社会的な側面も含めた情報発信力が鍛えられました。

私自身は、初期研修を終えた後、引き続き当院精神科で後期研修を行っています。将来的にはMPH(公衆衛生学修士)の取得なども含め、なんらかの形で精神保健分野の公衆衛生に携わりたいと考えています。

公衆衛生に関わる医師のキャリアは実に多様で、初期研修後、あるいは卒業後に飛び込む人もいれば、専門科でのトレーニングを十分積んだ後にこの世界に入る人もいて、それぞれの強みや役割があると感じます。このプログラムを通して早い段階で公衆衛生の概要を学び、多くの先輩のキャリアについて知れたことは、2年の研修全体の中でも非常に大きな収穫でした。

国立保健医療科学院での研修に興味をもってくださった方は、ぜひ当院の説明会などで実際の体験談を聞いていただければと思います。みなさんが、自分の関心・適性に合ったよい研修生活を迎えられることを心より願っています。

16生 Bプログラム
東 宙 先生



病気をこえて、生活を支えるモデルに接する

平成29年12月から30年1月にかけて、高知県高岡郡の栲原病院を中心に、周辺の診療所と合わせて研修させていただきました。とにかく高知を大好きになる2ヶ月で、病院・行政・その他の方々が無条件に親切だったことが強く印象に残っています(お遍路文化が背景にあると伺いました)。～き(～なので)・～ろう(～だろう)・～ゆう(～している)など、初めて聞く栲原の言葉は土佐と伊予が混じったものですが、とても人懐こい印象を受け、自分も積極的に使うようにしてみました。

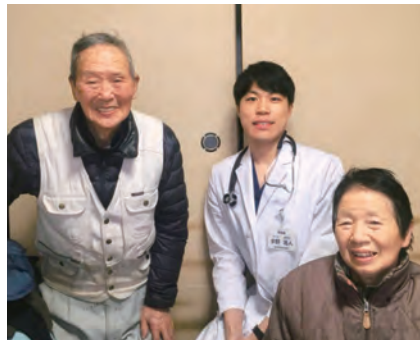
栲原では、皆が皆のことを知っているようでした。毎週のケアプラン会では多職種で閉居がちな独居老人など各ケースの支援策を話し合いますが、「〇さんは×さんの叔父だから、その妻の△さんの定期受診のときに話を聞こう」といった会話が当然のように交わされます。たくさんの往診・居宅訪問に同行する中で、実際の生活の場を見て知ることが、きめ細やかな議論を可能にしているとわかりました。都内で当直に入ると、瀕死状態になって初めて発見された高齢者をこれでもかというように見ますが、その前に拾い上げることができる、というのが新鮮な気づきでした。病気をこえて、生活への視点が重要なことを改めて実感しました。今後自分が臨床を行っていくうえで、栲原のやり方を手本として振

り返っていきたくと思っています。

当直帯に薬剤師さんや技師さんが不在になる栲原病院では、レントゲン・CT・検体検査に加え、処方薬の用意や一包化まで医師が行う必要があります。PCでクリックすれば完了するのをあたりまえに感じていたのが、内側で行われていることを体験し、医師の立場としてこれは気をつけよう、と心がけるきっかけになりました。

実習期間が年末年始に重なったおかげで、忘年会や正月はじめ種々の行事に参加することもできました。とくに病棟詰所での年越しは、指導医・夜勤の看護師さんと皆でコタツに入り、持ち寄りご飯を食べながら紅白歌合戦(高知県出身の三山ひろしを応援しました)を鑑賞して、なんとも風情がありました。

カツオを筆頭とした魚、土佐あかうし、芋けんぴなどご馳走になる食べ物は最高で、雪の積もったカルストや透明度日本一の仁淀川、最果ての足摺岬など案内いただいた自然も最高でした。ゆるキャラのカツオ人間など、高知県は観光のPRも面白いです。ぜひまた、今度は暖かい季節に高知を訪ねたいと思っています。



短期研修プログラム

将来保健所勤務等、公衆衛生分野のキャリアを目指す医師を養成することを目的として実施する、東大病院ならではの研修システムです。

対象	2年目(I、II Bプログラム)の研修医
募集人数	若干名
研修拠点	国立保健医療科学院(埼玉県和光市)
研修先	科学院、国立の研究機関、WHO関連機関(海外研修)厚生労働省等
研修期間	2ヶ月間(研修の選択科目期間に実施)

〈研修内容例〉

- 研修1週目～2週目
 - ・世界保健機関(WHO)ジュネーブ本部研修
- 研修3週目～5週目
 - ・感染症対策研修
 - ・国内外の外部組織に赴任訪問滞在先例
 - WHO西太平洋地域事務局、フィリピン大学、厚生労働省、国立感染症研究所/検疫所等
- 研修6週目
 - ・中間報告書作成・提出

■ 研修7週目

- ・成果発表会用資料作成、キャリアの相談会への参加

■ 研修8週目

- ・成果発表会、修了証授与式、懇親会への参加



短期研修プログラム写真



CLOSE UP 高知県地域医療研修

「本物の地域医療研修を研修医に！」がポリシーの高知県の地域医療研修は、初期臨床研修必修化のスタート時点(2004年)から始まりました。首都圏の病院の研修医受け入れは2009年に開始され、これまでに総勢198名に達しました。東京大学からは51名が、9つある病院群(右図)のうち7つで経験を積みまれました。梶原病院、嶺北中央病院の受入数はそれぞれ11名、16名となります。見たことのない土地で、もしかすると一生触れないかもしれない生活を経験してくれると嬉しいです。都会と地方を合わせて、それが日本の医療です。

嶺北中央病院について

嶺北中央病院は、四国のほぼ真ん中に位置する本山町にあります。本山町唯一の医療機関、唯一の救急病院として、救急医療、人工透析、へき地診療などの重要な役割を果たし、住み慣れた地で安心して暮らしていくために「なくてはならない病院」でありたいと願っています。

DATA

病床数	1日平均患者数	職員数
・一般病床55床	・外来112.1人	・150人
・療養病床44床	・入院2.1人	

高知県地域医療研修協力施設 9グループ

2019年4月現在



※写真提供 ■高知県本山町

FACILITIES サポート環境

研修生活をサポートする

アメニティ施設・設備が院内外の各所に点在しています

歴史と伝統、そして文化が息づく文京区にある東大病院。

爽やかな声が飛び交う御殿下グラウンド。

みどり豊かな自然に囲まれる三四郎池。その「歴史」と「最先端」を感じながら、このすべてがフィールドです。

1 PRIVATE

院内に用意された研修医専用室にはデスクやパソコンが備わっており、空き時間や研修終了後などにいつでも利用することができます。



研修医室

- 男女の各更衣室に各自のロッカーが与えられます。
- 研修医白衣は本院より貸与します。
- 研修医のための居室・病院職員のための仮眠室が完備されています。



研修医談話コーナー

2 RESEARCH

本学総合図書館や医学部総合中央館(図書館)が利用できます。インターネットを利用した文献検索(UpToDate等)もできます。



本学総合図書館

昭和3年完成の重厚かつ豪華な図書館



医学部総合中央館(図書館)

2008年度にリニューアルし、蔵書数は約288,000冊を誇ります。

3 SHOPPING

24時間営業の入院棟売店「Kショップガーデン」ほか、外来診療棟の売店やコンビニエンスストアも完備されています。



売店 Kショップガーデン(入院棟A1階)



コンビニエンスストア ローソン
(外来診療棟 地下1階)

- 学内生協では各種医学書(邦洋書)を始め、PC、文房具等が販売されています。
- 「ベネフィット・ステーション(法人契約の福利厚生サービス)」を通じて、旅行、宿泊、グルメ、レジャー施設、各種チケット等が会員価格で利用できます。

4 REFRESH

学内の御殿下記念館には、スポーツジム・トレーニング室が備わっており、25m×6コースのプールも完備されています。1年間いつでも利用可能なパスカードは11,000円(半年:8,000円)で購入できます。



トレーニング室

ダンス、ヨガ等のエクササイズプログラムも豊富です。



プール

サウナルーム、シャワーブースもあります。



ジムナジウム(バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等)さまざまなスポーツが楽しめます。クライミングウォールも体験できます。

リフレッシュルーム
(管理・研究棟1階)



院内には職員専用のマッサージ室があり、1回40分・500円で利用できます(誕生日には無料サービスもあります)。手軽に心身のリフレッシュができるとあって大変好評です。

5 BREAK TIME

院内には「スカイレストラン ブルークレール精養軒」をはじめ、複数のレストランがあります。研修の合間にTULLY'S COFFEEやドトールで一息も。



スカイレストラン
ブルークレール精養軒
(入院棟A 15階)



ドトール
(外来診療棟 地下1階)



TULLY'S COFFEE
(入院棟A1階)



cafe ゆりの樹 by ROYAL
(入院棟B1階)

PICK UP!!

入院棟B1階に職員食堂「くすのき」がオープンしました。職員待望の職員専用食堂で、オープン以降は多くの職員で賑わっています。



6 OTHER SCENES

院内に郵便局・みずほ銀行ATMが設置されているほか、学内にはみずほ・三菱UFJ・三井住友銀行の各ATMが設置されています。



みずほ銀行ATM
(入院棟A 1階/外来診療棟 1階)



東京大学内郵便局
(入院棟A 1階)

女性医師の支援

本院では女性研修医でも安心して研修に専念できる環境づくりを目指しています。例えば、研修期間中に妊娠した場合、「産前6週間・産後8週間」の産前産後休暇が認められている他、妊娠中、育児の間、研修先の診療科(部)に業務の調整を求める等、センターの女性教員等が無理なく研修を行えるよう、手厚くサポートします。



女性医師休憩室(女性研修医専用)
(入院棟B14階)

専門研修概要

卒後臨床研修から専門研修へ
基本領域からサブスペシャルティ領域へ



本院専門研修プログラムは、卒後臨床研修の修了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を広く向上させ、より専門的なトレーニングを行うためのプログラムです。それぞれの医師の抱くキャリアデザイン(人生設計)を本院が最大限に支援しようという理念に基づき、プログラムを提供します。この期間は、本院ならびにプログラム連携施設における診療の経験を通して、将来のキャリアデザインを構築してゆく機会とも成り得ます。

本院専門研修プログラムは、2018年度から開始された新専門医制度に対応しており、基本領域からサブスペシャルティまでの一貫したプログラムを提供しています。それぞれの分野での専門研修プログラムの詳細については、各診療科(部)ホームページをご参照ください。

本院は、領域を問わず全ての分野において、自ら問題を発見し、解決する能力を備えた、将来の指導者たるべき人材の育成を目指しています。今後も、この理念に沿って各自の志向に応じた専門研修を可能にし、将来のキャリアデザインの実現のため、柔軟性に富んだ研修プログラムを提供していきたいと考えています。

■ 卒後臨床研修後の進路

卒後臨床研修プログラム別・出身大学別専門研修プログラム採用状況(2019年度)

自大学以外からも、全国の大学から多種多様なバックグラウンドを持った人材が集まってきています。

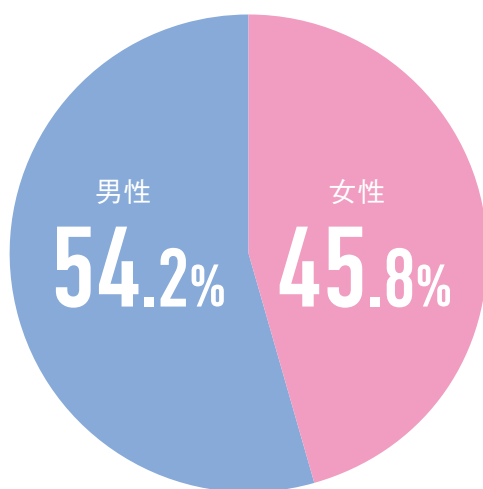
専門研修プログラム 197名	
東京大学出身 61名	本院卒後臨床研修プログラム 64名 47名 他院卒後臨床研修プログラム 133名 89名 他大学出身 136名
44名	89名
東京大学出身 31.0%	他大学出身 69.0%

INFORMATION & DATA

■ マッチング状況

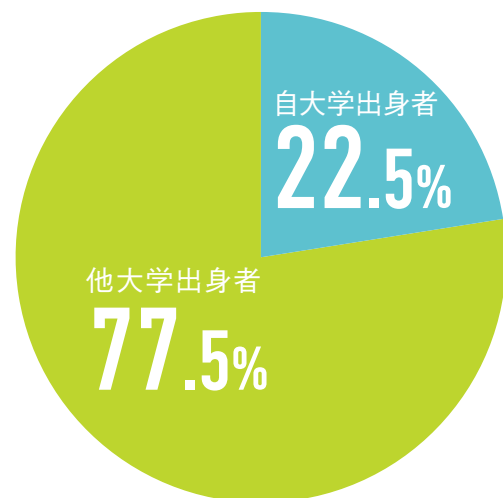
採用年度	募集定員	マッチング数	女性数(内数)	自大学出身者(内数)	採用大学数*
2015年度	126	125	45	41	44 [4]
2016年度	127	125	37	35	43 [0]
2017年度	127	127	54	35	49 [3]
2018年度	126	118	61	27	40 [4]
2019年度	120	120	55	27	44 [1]

※[]は海外の大学(内数)



マッチング者に占める女性の割合

多くの女性研修医が日々の研修に励んでいます。女性医師の支援にも力を入れており、安心して研修を行うことができます。



マッチング者に占める自大学出身者の割合

自大学出身者は約2割強であり、全国の大学から研修医の採用を行っています。

※いずれも2019年度実績

■ 年間スケジュール

医学生

2019年

- 6月13日(木) □ マッチング参加登録開始
- 6月28日(金)~7月22日(月) ■ 研修医選抜試験願書登録期間
- 6月29日(土) ■ 東大病院まるごと探訪フェスティバル2019
- 8月1日(木) □ マッチング参加登録締切
- 8月19日(月) ■ 研修医選抜試験[第1回]
- 8月21日(水) ■ 研修医選抜試験[第2回]
- 9月5日(木) □ マッチング希望順位登録受付開始
- 9月19日(木) □ マッチング希望順位登録中間発表前締切

- 9月20日(金) □ マッチング中間発表
- 10月3日(木) □ マッチング希望順位登録最終締切
- 10月17日(木) □ マッチング組合せ結果発表
- 12月下旬 ■ 2020年度(20生) II Bプログラム1年目研修病院決定

2020年

- 2月上旬 ■ 医師国家試験
- 3月中旬 ■ 医師国家試験結果発表
- 4月上旬 ■ 新規採用研修医採用時研修

研修医募集要項(2020年度採用)

【受け入れ予定人数】

109名(プログラムⅠ60名、プログラムⅡA15名、プログラムⅡB30名、小児科重点プログラム2名、産婦人科重点プログラム2名)

【出願資格】

医師臨床研修マッチングに参加し、マッチングIDを有する者

【採用者選抜方針】

東京大学医学部附属病院の研修プログラムでは、医学卒前教育で学んだ基本的な臨床能力を基に、2年間の研修期間においてその基礎能力を発展させ、将来の医療及び医学の分野で活かしていくことのできる能力を身につけることを目的としています。本院が求めているのは、単に医学的知識を有するだけでなく、医師としての高い倫理観を持ち、社会において果たすべき役割を認識してその責務を果たすことができる研修医です。そして、医療チームの一員としての自覚を持ち、他の医療スタッフや患者等の意思を理解し、それを踏まえたうえで自分の考えを

まとめ、その考えを適切に他者に伝えることができる能力のある者を本院では積極的に採用したいと考えています。医学卒前教育までに培ったこれらの基礎能力を、提出された書類、筆記試験、小論文及び面接試験を通して評価します。

【試験期日】

2019年8月19日(月)・21日(水)

【場所】

東京大学本郷キャンパス内の指定された試験会場

【選抜方法】

書類審査、筆記試験、面接試験

【出願手続き】

Webによる出願及び必要書類の郵送が必要となります。詳しくはHPを参照してください。

研修医処遇(2020年度)

【1.身分】 非常勤職員

【2.研修手当】 1年次：基本手当/月 平均252,000円(12,000円/日)
2年次：基本手当/月 平均262,500円(12,500円/日)
〈賞与〉無 〈時間外手当〉有
〈休日手当〉無 〈住居手当〉有

【3.勤務時間】 一週あたり38時間45分とし、勤務割振表による変形勤務

【4.休暇】 〈有給休暇〉採用1年目：10日 採用2年目：11日
〈夏季指定休暇〉有(7～9月中に2日)
〈夏季休暇〉有(7～9月中に1日)
〈年末年始〉有
〈その他〉忌引(有給)、病気休暇(無給・30日まで)、
産前産後休暇(無給・産前6週間、産後8週間)

【5.当直】 1年次：0回/月 2年次：～4回まで/月

【6.研修医の宿舎】 有(単身用、敷地内)

【7.研修医の院内の個室】 無(研修医のための居室・教職員のための仮眠室は完備)

【8.社会保険・労働保険】 〈公的医療保険〉全国健康保険協会管掌健康保険
〈公的年金保険〉厚生年金
〈労働者災害補償保険法の適用〉有
〈国家・地方公務員災害補償法の適用〉無
〈雇用保険〉有

【9.健康管理】 1年目は採用時健康診断
2年目は職員健康診断を受診

【10.医師賠償責任保険】 個人加入は任意
(病院として病院損害賠償責任保険に加入)

【11.外部の研修活動】 〈学会、研究会等への参加〉可
〈学会、研究会等への参加費用支給の有無〉無

【12.その他】 アルバイトは禁止する

研修医

2019年

4月1日(月) ■ 入職式

6月29日(土) ■ 東大病院まると探訪フェスティバル2019



9月頃 □ 専門研修願書受付開始

10月頃 ■ 2019年度プログラム2年目研修病院説明会

12月頃 ■ 2019年度プログラム2年目研修病院決定

2020年

3月下旬 □ 2019年度(18生)研修医修了式

東大病院まると探訪フェスティバル2019

フェスティバルは、本院外来診療棟1階外来ホールで診療科(部)及び一部の協力病院毎にブースを設置し、参加者が希望する診療科(部)の医師や先輩研修医から卒後臨床研修プログラムや専門研修プログラムについて、直接説明を受けることができます。昨年度は全国各地から約250名の参加があり大盛況となりました。

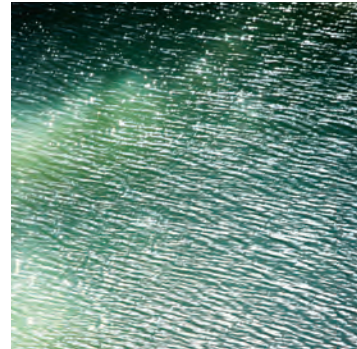


■ 1年目研修医 / □ 2年目研修医



東京大学医学部附属病院 総合研修センター

〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1
 TEL: 03-5800-8608 (直通) FAX: 03-5800-6937
 e-mail: soken@h.u-tokyo.ac.jp
 HP: <http://www.h.u-tokyo.ac.jp/soken/top.html>
 Facebook: <https://www.facebook.com/utokyosoken/>



Access

地下鉄

東京メトロ丸の内線 本郷三丁目駅 2番出口 徒歩約10分
 都営地下鉄大江戸線 本郷三丁目駅 5番出口 徒歩約10分
 東京メトロ千代田線 湯島駅 1番出口 徒歩約15分
 東京メトロ丸の内線 御茶ノ水駅 2番出口 徒歩約15分
 東京メトロ千代田線 根津駅 2番出口 徒歩約15分

バス

都営バス(学07) 東大構内行「御茶ノ水駅前」発「東大病院前」下車
 都営バス(学01) 東大構内行「上野公園山下」発「東大病院前」下車
 都営バス(学01) 東大構内行「上野松坂屋前」発「東大病院前」下車

